

怪奇骨董新書箱

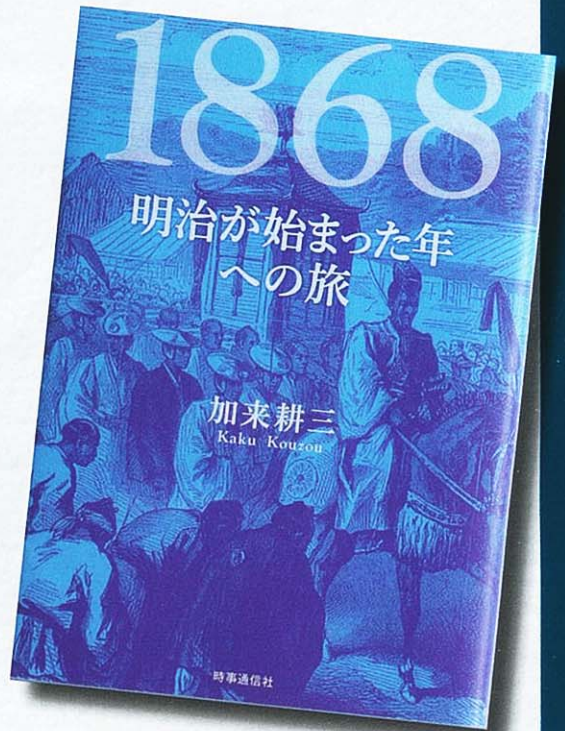
好評連載

ネットブック? ケータイ小説? カンケーナイもんねー。本誌待望の新刊ラウンジ「怪奇骨董新書箱」。書籍、写真集、コミック、小説、ムックから新年カレンダーまで!? オモシロブック総まくりでお届けします!

明治元年から150年となる本年ゆえ、なにかと「150年前」が話題になるのは道理である。しかしながら、日本史好きの中でも、幕末はごちゃごちゃしていていまい流れがつかめない、というヒトも多いはず。史上に残るトピックが多くあり、多いだけに関係者もふくれあがる。またおそろく、時代が近く記録も豊富に残っているため検証や記述が詳細になりがちで、大まかな流れをつかむことを難しくしているように感じる。しかるに本書は1968年の一年間に起こった出来事を時系列に記すことで、事の前後関係を明瞭にしている。後世視野からは重大事でも、情報の限られた当時市民たちに温度差があったのは面白い。たとえば彰義隊が新政府軍と闘った「上野戦争」だが、戦闘を見物に行く者、握り飯を売る者すらいたというから物見遊山だ。ちなみにこの年1月3日に鳥

1 1868明治が始まった年への旅

加来耕三 / 時事通信社 / 1400円+税



羽伏見の戦い(戊辰戦争)としては五稜郭陥落までが始まる。徳川慶喜の不可解な敵前逃亡で新政府軍の勝利となるわけだが、その後、4月には江戸無血開城と近藤勇処刑。5月には奥羽列藩同盟が奥羽25藩によって結成され、6月には新政府軍がその追撃と戦闘を開始。7月には明治天皇が江戸を東京と改称する詔を出し、8月には新政府軍が会津若松城下に進撃、会津藩と対峙する。9月には会津若松城が開城し降伏、奥羽平定。ドラマで綾瀬はるかが演じた山本八重も投降する。新政府による初の修好通商・航海条約がスウェーデン・ノルウェー王国およびスペイン王国との間に結ばれる。10月には京都より東京に着いた天皇により万機御親裁の詔が出された。11月には榎本武揚ら旧幕府軍が松前城を占領し、12月には蝦夷地の平定と新政権の樹立を諸外国の領事に宣言……とい

2 知ってるつもり 無知の科学

ステイブン・スローマン&フィリップ・ファーンバック / 早川書房 / 1900円+税



う抜き書きだけでワクワクしないだろうか。この年、徳川慶喜32歳、勝海舟46歳、西郷隆盛42歳、大久保利通39歳、そして明治天皇が17歳(いづれも数え)。現代の出発点となるクライマックスばかりの一年を追体験できる本書はズバリ、面白い! 四六版。372ページ。

2 キャッチーな題名の本書が繰り返し述べていること、それはヒトは個人として驚くほど無知であるにも関わらず、それを認識せず、どこか想定以上に知っているのと錯覚するのはなぜか。さらには、ヒトはその進化の過程でさまざまな発見や発明、改良により種として広がり、モノも作り出してきた。ボクたちはその先端を生きるワケだけど、ではなぜ、多くのヒトはファスナーやインターネットの仕組み、万年筆の

構造を知らぬママ使いこなすのか。たとえば日々使用する水洗トイレの構造すら知らないことを、不安に感じたり、知ろうと思いつたり(多くの場合)しないのはなぜだろう。本書ではその理由は、ジヤイアン理論と表現はしないが)であるとする。つまりは「オマエの知識は俺の知識」と思い込む「知識の錯覚」が多くのヒトに起きているからと推論するのだ。全編、ウイットに富んだ筆致でサイエンス系が苦手な人でも、物語のように読み進めることができるだろう。ココでは文字の制限により詳述しえないが、知らないことを知らないのはヒトの特性であり、だからこそ進化し、繁栄を獲得できた……。「なぜ?」と感じた貴殿にはぜひ本書を手にとって欲しい。きつと、無知の価値を理解できるだろう。四六判。310ページ。